2019年8月5日作成
2021年11月12日更新

小坂英世著作目録

著　書

1966年
『精神衛生活動の手引き』日本看護協会出版部

1970年
『精神分裂病患者の社会生活指導』医学書院

1972年
『患者と家族のための精神分裂病理論』珠真書房
『精神分裂病読本――改訂版・精神衛生活動の手引き』日本看護協会出版部

共著書

1970年
『市民の精神衛生――社会のなかで精神病を治す』勁草書房（共著者：岡田靖雄）

分担執筆

1966年
「疾病管理の実際」江副勉編『精神障害の発見と管理』（医学書院）所収

1970年
「地域精神医療の展開」加藤正明編『公衆衛生看護双書　13　精神衛生』（医学書院）所収（金松直也との共著）

1971年
「リハビリテーションの技術論――精神分裂病の場合」江副勉監修『精神科リハビリテーション』（医歯薬出版）所収

1972年
「精神衛生」篭山京編『公衆衛生　現代社会保障叢書　3』（至誠堂）所収

翻訳書（河村高信と共訳）

1958 年

『精神分裂病の心理』（シルヴァーノ・アリエティ著）牧書店（1966 年改訂版）（書評，島崎敏樹〔1959 年〕「Silvano Arieti 著　加藤正明, 河村高信, 小坂英世訳　精神分裂病の心理」『精神医学』第１巻２号, 26 ページ；針塚進〔2008 年〕「『神経症と創造性』および『精神分裂病の心理』」『臨床心理学』第８巻，764 – 767 ページ）

雑誌論文（単著）

1960 年

「精神分裂病患者の家族関係の研究（第１報）」『医療』第 14 巻, 259 – 272 ページ（博士論文）

「精神分裂病患者の家族関係の研究（第２報）」『医療』第 14 巻, 354 – 360 ページ（博士論文）

1962 年

「在宅（退院）患者の訪問指導をどう進めるか」『保健婦雑誌』第 18 巻, 57 – 60 ページ

1963 年

「栃木県における精神病者の管理」『精神医学』第５巻, 569 – 573 ページ

「栃木県における精神病者の管理」『厚生の指標』第 10 巻７号, 26 – 29 ページ

1964 年

「栃木県における精神病者の管理」『公衆衛生』第 28 巻, 163 – 167 ページ

「精神障害者に対する訪問指導はいかにあるべきか」『愛媛精神衛生研究』第 1 号，11 – 16 ページ

1965 年

「精神障害者に対する訪問指導」『保健』第 146 号，14 – 17 ページ

「精神障害に対する疾病管理 (その１)」『看護』第 17 巻 10 号, 81 – 86 ページ

「精神障害の疾病管理 (その２)」『看護』第 17 巻 11 号, 77 – 84 ページ

「精神障害の疾病管理 (その３)」『看護』第 17 巻 12 号, 177 – 182 ページ

1966 年

「社会適応の援助はどのようにあるべきか。その中における医療チームのそれぞれの役割はどうか　指定討論」『精神医学ソーシャル・ワーク』第２巻第１号，110-111 ページ

「精神障害者に対する保健指導」『生活教育』第 10 巻 2 号 , 64 － 75 ページ

「精神障害の疾病管理 (その４)」『看護』第 18 巻１号, 87 – 92 ページ

「精神障害の疾病管理 (その５)」『看護』第 18 巻２号, 89 – 95 ページ

「精神障害の疾病管理 (その６)」『看護』第 18 巻３号, 169 – 173 ページ
「精神障害の疾病管理 (その７)」『看護』第 18 巻４号, 79 – 82 ページ
「精神障害の疾病管理 (最終回)」『看護』第 18 巻６号, 151 – 157 ページ
「精神病院の機能と限界」『精神医学』第８巻, 583 – 587 ページ
「家族会のあたらしいあり方について」『病院精神医学』第 13 号, 111 – 115 ページ
「精神衛生と行動科学　生態学派の立場から」『公衆衛生』第 30 巻, 504 – 507 ページ
「地域精神医学における問題点 (地域精神医学 その理論と実践(第63回日本精神神経学会総会シンポジウム)」『精神医学』第８巻, 816 – 819 ページ

1967 年

「精神衛生相談員とサイキャトリック・ソーシャルワーカーについて」『看護』第 19 巻７号, 46 – 52 ページ
「ルポルタージュ・看護研究グループの活動 精神医療とコミュニティ」『看護学雑誌』第 31 巻８号, 44 – 47 ページ
「地域社会対策の意義について」『全国精神障害者家族連合会だより』第８号, 14 – 17 ページ
「精神衛生センター医師の一週間」『東京の精神衛生』第６号、9 – 11 ページ
「シルヴァーノ・アリエティ『精神分裂病の心理』」『看護技術』第 13 巻 10 号, 61 – 64 ページ
「地域精神衛生行政の現状と諸問題 精神衛生相談員制度をめぐって」『保健婦雑誌』第 23 巻 11 号, 30 – 33 ページ

1968 年

「保健婦活動への発言１　訪問指導に思うこと」『保健婦雑誌』第 24 巻1号, 56 – 56 ページ
「保健婦と患者家族を友として」『公衆衛生』第 32 巻, 103 – 106 ページ
「保健婦活動への発言２　よく " みえる " ためには」『保健婦雑誌』第 24 巻2号, 65 ページ
「『本を読むな』ということ」『保健婦雑誌』第 24 巻４号, 57 ページ
「自分の歌をうたうこと」『保健婦雑誌』第 24 巻５号, 57 ページ
「『シロウト』の知恵に学ぶ」『保健婦雑誌』第 24 巻６号, 53 ページ
「マリアモンテッソーリにおもう」『保健婦雑誌』第 24 巻７号, 57 ページ
「ヘルマン・ブールという男」『保健婦雑誌』第 24 巻８号, 55 ページ
「竜の夢」『保健婦雑誌』第 24 巻９号, 61 ページ
「コロンブスの船出」『保健婦雑誌』第 24 巻 10 号, 65 ページ
「島は東京を向いていた」『保健婦雑誌』第 24 巻 11 号, 61 ページ
「三歳児検診」『保健婦雑誌』第 24 巻 12 号, 61 ページ

1969 年

「廃用性萎縮」『保健婦雑誌』第 25 巻１号, 65 ページ
「自分の歌を守るためには」『保健婦雑誌』第 25 巻３号, 61 ページ
「母と子の精神衛生 精神分裂病の家庭背景」『助産婦雑誌』第 23 巻４号, 68 – 69 ページ

「精神衛生とは」『保健婦雑誌』第 25 巻4号, 72 ページ
「母と子の精神衛生 ダウン候症群について」『助産婦雑誌』第 23 巻5号, 60－61 ページ
「症状は重要か」『保健婦雑誌』第 25 巻6号, 55 ページ
「看護相談室　妄想・幻覚のある精神科患者」『看護学雑誌』第 33 巻6号, 58 ページ
「母と子の精神衛生　精神薄弱の早期発見について」『助産婦雑誌』第 23 巻7号, 64－65 ページ
「通院医療について」『保健婦雑誌』第 25 巻7号, 52 ページ
「母と子の精神衛生　こういう育児もある」『助産婦雑誌』第 23 巻8号, 64－65 ページ
「家族会について」『保健婦雑誌』第 25 巻8号, 61 ページ
「母と子の精神衛生　精神分裂病患者と生活　その1」『助産婦雑誌』第 23 巻9号, 64－65 ページ
「精神分裂病患者の家族」『保健婦雑誌』第 25 巻9号, 64 ページ
「精神衛生教育について」『保健婦雑誌』第 25 巻 10 号, 80 ページ
「母と子の精神衛生　精神分裂病患者と生活　その2」『助産婦雑誌』第 23 巻 10 号, 66－67 ページ
「母と子の精神衛生　精神分裂病患者と生活　その3」『助産婦雑誌』第 23 巻 11 号, 48－49 ページ
「再発は宿命か」『保健婦雑誌』第 25 巻 11 号, 65 ページ
「母と子の精神衛生　精神分裂病患者の家族」『助産婦雑誌』第 23 巻 12 号, 60－61 ページ
「入院についての考え方」『保健婦雑誌』第 25 巻 12 号, 62 ページ

1970 年

「母と子の精神衛生　精神科薬物療法と性的機能」『助産婦雑誌』第 24 巻2号, 60 ページ
「クスリづけ」『保健婦雑誌』第 26 巻2号, 64 ページ
「母と子の精神衛生　精神分裂病患者と無月経」『助産婦雑誌』第 24 巻3号, 60－61 ページ
「精神分裂症患者の身体的疲労」『保健婦雑誌』第 26 巻3号, 72 ページ
「精神分裂病の初発」『保健婦雑誌』第 26 巻4号, 62 ページ
「症状があってもいいのではないか」『保健婦雑誌』第 26 巻5号, 62 ページ
「“肥りすぎ”という現象」『保健婦雑誌』第 26 巻6号, 62 ページ
「精神衛生」『公衆衛生』第 34 巻7号, 416－421 ページ
「薬物の投与方法について」『保健婦雑誌』第 26 巻7号, 62 ページ
「患者は再発に対して成長するのか」『保健婦雑誌』第 26 巻8号, 54 ページ
「いかほど薬を飲んでも」『保健婦雑誌』第 26 巻9号, 54 ページ
「生活と作業」『保健婦雑誌』第 26 巻 10 号, 62 ページ
「一刻一秒を争う」『保健婦雑誌』第 26 巻 11 号, 62 ページ
「Schizophrenogenic な家族」『保健婦雑誌』第 26 巻 12 号, 64 ページ

1971 年

「精神分裂病患者の弱点」『保健婦雑誌』第 27 巻1号, 58 ページ
「教育者の役割」『保健婦雑誌』第 27 巻2号, 36 ページ
「分裂病患者の強がり」『保健婦雑誌』第 27 巻2号, 50 ページ

「ある試み」『保健婦雑誌』第 27 巻４号, 62 ページ
「ある家族の手紙」『精神医療　第２次』第２巻１号, 95－101 ページ
「通院往診を主体とした診療所」『病院』第 30 巻５号，64―67 ページ

口頭発表

1960 年

「第 14 回国立病院療養所総合医学会精神神経科分科会　精神分裂病患者の親子関係」『医療』第 14 巻（Supplement)，240-256 ページ（246 ページ）（共同発表者：河村高信，村瀬孝雄，真下弘，加藤正明，佐治守夫，片口安史，竹村和子，田頭寿子，高柳信子）

1963 年

Health administration of psychotics in Tochigi Prefecture. Joint Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology and the American Psychiatric Association, May 14, Tokyo.

1987 年

「駆水剤による精神病治療」『第 38 回日本東洋医学会発表論文要旨集』25 ページ（質疑応答：『日本東洋医学雑誌』第 38 巻，134 ページ）

雑誌論文（共著）

1957 年

「作業療法の治療効果判定に関する研究」『精神衛生研究』別巻第１号，45－49 ページ（共著者：分島俊，清水寿，津金沢政治）

1958 年

「開放療法の研究――精神病院患者処遇（開放度）についての全国現況調査」『病院精神医学』第２巻、65－78 ページ（共著者：岡田靖雄，河村高信）
「安房郡下の精神障害者について」『千葉精神衛生』第２号、1－30 ページ（共著者:分島俊，松本胖、清水寿，河村高信、森三郎、加藤正明）

1959 年

「精神科領域における Perphenazine の使用経験」『内科の領域』第７巻，542－550 ページ（共著者：松本胖，鈴木秋津，佐々木司郎，田中穂積，山上龍太郎，石川鉄男）
「精神分裂病の新しい６分類――Beck の The Six Schizophrenia について 」『ロールシャッハ研究』第２号，202 ページ（共著者：河村高信）

1960 年

「治療社会における人間関係の研究・精神科職員の意見調査のこころみ」『精神医学』第２巻，595－602 ページ（共著者：加藤正明，中川四郎，岡田敬蔵，竹村和子，徳江富士弥）

1963 年

「保健所の精神衛生活動」『保健』第 120 号、8－10 ページ（共著者：山田美弥雄）

1966 年

「精神衛生活動を進めるにあたって」『看護』第 18 巻3号, 150－167 ページ（共著者：外間邦江他）

1967 年

「精神医学ソーシャル・ワーカーの位置づけ」『精神医学』第9巻, 59－64 ページ（共著者：岡田靖雄，住吉和子）

1969 年

「未熟児検診について（第１報）」『東京都衛生局学会誌』第 42 号, 59－61 ページ（共著者：野原清水, 桜井達男, 村上増子, 山口輝彦）

1970 年

「現代精神病院論」『保健婦雑誌』第 26 巻７号, 30－35 ページ（共著者：岡田靖雄）

「入院の適応が地域側と診療所側でくいちがった症例について」『地域精神医学』第５号，14－19 ページ (共著者：浜田晋，松浦光子，茂木恵一，小口文子，吉岡真二，長谷川源助，松下正明，高橋浩史）

1986 年

「胃炎に対する香砂平胃散加芍薬エキス製剤の臨床評価」『現代東洋医学』第７巻,107－116 ページ（共著者: 野岡正憲, 松田邦夫, 杵渕彰, 山田光胤）

1988 年

「イメージと文化に関する研究」『甲南大学総合研究所所報』第７号，3－4 ページ（共著者：市川浩，河合隼雄，藤岡喜愛他）

小坂教室テキストシリーズ（謄写版印刷）

1971 年

「患者と家族のための精神分裂病理論」小坂教室テキストシリーズ　№.1（1971 年 11 月 17 日時点での理論。手書き）

「続・患者と家族のための精神分裂病理論」小坂教室テキストシリーズ　№.2（1971 年 12 月 20 日時点で

の理論。手書き）

1972 年

「精神分裂病治療における通院治療と入院治療」小坂教室テキストシリーズ　№3（1972 年 1 月 25 日記。手書き）

「精神分裂病治療におけるクスリの意議」小坂教室テキストシリーズ　№4（1972 年 1 月 25 日記。手書き）

1973 年

「再発の研究」小坂教室テキストシリーズ　№5（1973 年 9 月 6 日記。手書き）

「抵抗とイヤラシイ再発の研究」小坂教室テキストシリーズ　№6（1973 年 9 月 28 日発行。手書き）

「再燃，症状の動揺，症状の進行，症状の増悪および初発の研究」小坂教室テキストシリーズ　№7（1973 年 10 月 15 日発行。手書き）

「『コドモ扱い』『オトナ扱い』」小坂教室テキストシリーズ　№8（1973 年 11 月 16 日発行。手書き）

1974 年

「過去の分析（その 1）」小坂教室テキストシリーズ　№9（1974 年 2 月 22 日発行。手書き）

「患者の手紙に関する注意」小坂教室テキストシリーズ　№10（1974 年 2 月 25 日発行。手書き）

1976 年

「私の病因論と治療法」小坂教室テキストシリーズ　№11（1976 年 6 月 3 日発行。タイプ印刷）

1977 年

「小坂から患者諸君に」小坂教室発行の 1977 年 10 月 20 日付リーフレット（手書きコピー，2 通りのヴァージョンあり）

インタビュー

看護学雑誌編集室（1970 年）「小坂英世先生に聞く　自己消滅活動こそ医療の論理」『看護学雑誌』第 34 巻 1 号，20－24 ページ

対　談

小林八郎（1971 年）「対談　分裂病の家族論」『保健婦雑誌』第 27 巻 5 号，10－21 ページ

遠藤周作（1986 年）「漢方でこそ，精神病が治せる」『私の見つけた名治療家 32 人』（祥伝社）所収

佐々木豊文（1991 年）「能力開発医療を語る！」『The New Brain』第 3 巻 4 号，2－5 ページ

座談会，シンポジウム，パネルディスカッション

1966 年「座談会　精神分裂病の保健指導ではなにが重要なのか」『保健婦雑誌』第 22 巻 3 号, 12 – 20 ページ（同席者：土屋節子, 吉岡啓子, 石原幸夫）

1966 年「シンポジウム　地域精神医学――その理論と実践　精神医療と公衆衛生」『精神神経学雑誌』第 68 巻，158 ページ（司会：加藤正明）

1967 年「現地座談会　医師・保健婦のチームワーク　群馬県に聞く活動の実際」『保健婦雑誌』第 23 巻 11 号 34 – 50 ページ（同席者：江熊要一, 中沢正夫, 杉村一光, 桂アグリ, 内堀千代子, 西本多美江, 田島かづ江, 手塚ユキ , 大手謹子）

1968年 「座談会　家庭と精神障害」『精神衛生』No. 112 – 113, 1 – 11 ページ（同席者：加藤正明, 鶴見博, 西本多美江，岡部宗雄，小此木啓吾）

1968 年 「シンポジウム　私の地域精神医学――どこで、どんな考えで、どんな風にやってきたか」『地域精神医学』第 1 号、13 ページ（同席者：石原幸雄、中沢正夫）

1970 年 「座談会　精神科患者と家族」『看護学雑誌』第 34 巻 4 号, 108 – 116 ページ（同席者：岡田靖雄, 稲岡文昭, 竹村堅次, 松浦光子, 藤明朱美）

1971 年 「パネルディスカッション　精神分裂病者の社会復帰のための活動の総括に役立つために」『医学評論』38 号，1 – 24 ページ（同席者：菱山珠夫, 岡上和雄）

1971 年 「家族が保健婦に期待するもの」『保健婦雑誌』第 27 巻 5 号，27―35 ページ（同席者：東京あけぼの会，都内保健婦，相談員有志）

1972 年 「第 5 回総会シンポジウム　私ならこうする, 在宅分裂病者の生活指導」『地域精神医学』第 10 号, 37 – 44 ページ（同席者：江熊要一，山本和郎，金松直也）

書　評

中川四郎（1966 年 a）「評書 精神衛生活動の手引き」『看護』第 18 巻 7 号，96 – 97 ページ

中川四郎（1966 年 b）「小坂英世著 精神衛生活動の手引き」『保健婦雑誌』第 22 巻 8 号，69 ページ

岡田靖雄（1970 年 a）「小坂英世著　精神分裂症患者の社会生活指導」『保健婦雑誌』第 26 巻 10 号，64 ページ

岡田靖雄（1970 年 b）「〔書評〕小坂英世著「精神分裂病患者の社会生活指導』」『精神医学』第 12 巻, 1008 ページ

岡田靖雄（1971 年）「〔書評〕小坂英世著『精神分裂症患者の社会生活指導』」『病院』第 30 巻, 110 ページ

笠原嘉（1974 年）「小坂英世著『精神分裂病読本――精神衛生活動の手引』」『精神医学』第 16 巻, 630 – 631 ページ

追試研究

國分牧子（1975 年）「『小坂理論』に基く精神分裂病の再発研究」上智大学大学院教育学専攻修士論文

浜田晋（1975 年）「〔症例 16〕分裂病同胞例」岡田靖雄他編『精神科症例集　上巻』（岩崎学術出版）所収

浜田晋（1975 年）「〔症例 17〕分裂病（女･三三歳,もと会社員）」岡田靖雄他編『精神科症例集　上巻』（岩崎学術出版）所収

浜田晋（1975 年）「〔症例 18〕分裂病（女･一九四三年五月うまれ）」岡田靖雄他編『精神科症例集　上巻』（岩崎学術出版）所収

笠原敏雄（1976 年）「精神分裂病患者の防衛機制」『東大分院神経科研究会誌』第２号，78 – 92 ページ

笠原敏雄（1980 年）「内観による症状消失の心理力動に関する一考察――症例を中心として」『第三回日本内観学会発表論文集』（日本内観学会事務局）所収

栗本藤基（1980 年）「分裂病者の母親に内観を施行しての一考察」『第三回日本内観学会発表論文集』（日本内観学会事務局）所収

紹介，引用

K（1966 年）「施設紹介 東京都立精神衛生センターの活動を聞く　都民の精神衛生を一身に背負って」『公衆衛生』第 30 巻 12 号，707 ページ

保健婦雑誌編集室（1967 年）「グラフ　在宅精神障害者に光を！――東京都における医師と保健婦の訪問活動」『保健婦雑誌』第 23 巻 11 号，2 – 8 ページ

戸村シヅ子（1967 年）「精神障害者登録管理方式の変遷――小山保健所管内の概況」『保健婦雑誌』第 23 巻 11 号，68 – 72 ページ

桑原治雄（1967 年）「日本における地域精神医学――どこから出発するか」『精神医学』第９巻 11 号，809 – 821 ページ

岡田敬蔵（1968 年）「地域精神医学会の発足」『精神医学』第 10 巻，255 – 259 ページ（256 ページ）

精神衛生看護研究会（1968 年）「地域精神医学会に参加して」『看護』第 20 巻４号,61 – 65 ページ（62 ページ）

岡田靖雄（1968 年）「地域精神医学会の発足」『精神医学』第 10 巻３号，255 – 259 ページ

岡田靖雄（1968 年）「シンポジウム 第 1 回地域精神医学会より 私の地域精神医学　どこで，どんな考えで，どんなふうにやってきたか」『公衆衛生』第 32 巻２号，115 – 118 ページ

無署名（大熊由紀子）（1969 年）「精神病者を“野に放つ”」『朝日新聞』

近寅彦（1969 年）「地域精神衛生活動における保健婦の役割」『保健婦雑誌』第 25 巻 11 号，52 – 56 ページ

園田よし（1970 年）「精神分裂病の立場から――病院は牢獄である」『保健婦雑誌』第 26 巻 10 号，15 – 19 ページ

石原幸夫（1970 年）「精神医療における生活臨床と地域臨床――精神医学の社会的実践のために」『精神医学』第 12 巻 12 号，1003 – 1008 ページ

無署名（大熊由紀子）（1970 年）「精神病治療を社会の中で――入院させず対話で」『朝日新聞』12 月 14 日

増田陸郎（1971 年）「地域精神衛生活動これからの道――いわゆる " 生活臨床 " の場を訪ねて」『公衆衛生』第 35 巻５号，313 – 318 ページ

菅又淳，石原幸夫（1971 年）「精神衛生センターと入院診療――東京都立精神衛生センター・神奈川県立精神衛生センター」『病院』第 30 巻４号，48 – 52 ページ

岡田靖雄（1971 年）「新しい精神病院」『病院』第 30 巻 7 号，59 – 64 ページ

日本看護協会編集部（1971 年）「医師と患者の相互信頼によって建てられた小坂診療所」『日本看護協会機関誌』第 23 巻 8 号，口絵

風（1971 年）「ひと　患者側で建てた診療所に入る精神科医　小坂英世」『朝日新聞』

高杉晋吾（1971 年）「家族を治療者に，患者の人権回復を――東京あけぼの会の活動を探る」『保健婦雑誌』第 27 巻 5 号，22 – 26 ページ

水島節雄（1971 年）「精神障害者のリハビリテーションをめぐる諸問題」『信州医学雑誌』第 19 巻 3 号，233 – 237 ページ（236 ページ）

増田陸郎（1971 年）「地域精神衛生活動これからの道――いわゆる“生活臨床”の場を訪ねて」『公衆衛生』第 35 巻，313 – 318 ページ（317 ページ）

川上武（1971 年）『ちくま少年図書館 14　いのちを守る――医者のたたかい』筑摩書房 (149 ページ)

小林ユキ子，小宮勇，宇津野ユキ，貴志芳子，林義緒，船越治子，山岸春江 (1973 年)「私のやっている保健婦活動（2）」『保健婦雑誌』第 29 巻 10 号，58 – 67 ページ（65 ページ）

佐藤壱三，青木至（1973 年）「地域精神医学」『千葉医会誌』第 49 巻，79 – 83 ページ（81 ページ）

小澤勲編著（1975 年）『呪縛と陥穽』田畑書店（143 ページ）

佐藤壱三（1975 年）「巻頭言　国府台病院の歴史の中で」『精神医学』第 17 巻 7 号，670 – 671 ページ

臺弘（1975 年）「精神医学の方法論――生活臨床の教訓」『精神医学』第 17 巻 8 号，784 – 800 ページ

金松直也（1976 年）「閉ざされた地域（長野県木曽）における精神医療」『精神医学』第 18 巻 6 号，627 – 636 ページ

長坂五朗（1976 年）「外来だけで支えられる人，支えられない人」『精神医学』第 18 巻 6 号，645 – 656 ページ

増野肇，新福尚武，有安孝義，林信人，矢内伸夫，藍沢鎮雄（1976 年）「精神分裂病の再発に関する調査」『精神医学』第 18 巻，1147 – 1154 ページ（1150 ページ）

鈴木浩二（1978 年）「家族精神療法」懸田克躬他編『現代精神医学大系　精神科治療学 I』（中山書店」所収（『患者と家族のための精神分裂病理論』について，370 ページ）

浜田晋（1979 年）「地域診療所の精神衛生活動――浜田クリニック」『公衆衛生』第 43 巻 3 号，169 – 173 ページ（171 ページ）

桜井図南男(1979 年)「巻頭言　社会復帰のむずかしさ」『精神医学』第 21 巻 10 号，1038 – 1039 ページ(1038 ページ)

無署名（1985 年）「理想の在宅治療　心の病　新薬なし　入院も無用」『日刊スポーツ』7 月 24 日

浜田晋（1985 年）『こころ医者の記』毎日新聞社 (81 ページ)

中澤正夫（1985 年）「精神医療の歩み」中澤正夫・宇津野ユキ編『精神衛生と保健活動』（医学書院）所収（4，11 – 13 ページ）

大崎浪子，菅谷美樹，半田由美，本橋律子（1985 年）「地域の中で住民のために――渡辺富子さん（栃木）」『保健婦雑誌』第 41 巻 4 号，258 – 265 ページ（259 ページ）

松橋俊夫（1989 年）「精神病と腹症」『日本東洋医学誌』第 40 巻，55 – 57 ページ

浜田晋（1994 年）『心をたがやす』岩波書店（101 – 102，109，201 ページ）

岡上和雄（1994 年）「私的戦後精神科医療論」『病院』第 53 巻７号，651 – 656 ページ（655 ページ）
佐藤壹三（1994 年）「戦後精神科医療と精神医療」『病院』第 53 巻８号，755 – 760 ページ（758 ページ）
浅野弘毅（1994 年）「地域精神医学界の興亡」『精神医療　第４次』第 82 号, 62 － 67 ページ（63 ページ）
青戸由理子（1998 年）「国立肥前療養所における開放化の歩み」『精神看護』第１巻５号，64 – 69 ページ
笠原敏雄（1999 年）「精神科病院での経験」『春秋』第 411 号，25 – 28 ページ
笠原敏雄（2000 年）「無視される事実群」『春秋』第 418 号，20 – 23 ページ
笠原敏雄（2000 年）「心の実在」『春秋』第 422 号，11 – 14 ページ
笠原敏雄（2004 年）『幸福否定の構造』春秋社（第２章）
古屋龍太（2008 年）「日本病院・地域精神医学会の 50 年とわが国の精神保健福祉をめぐる流れ――1957 年～ 2007 年」『病院・地域精神医学』第 51 巻３号
中根允文（2009 年）「地域精神医学から社会精神医学へ」『日本社会精神医学会雑誌』第 18 巻, 176 – 177 ページ（176 ページ）
笠原敏雄（2010 年）『本心と抵抗』すぴか書房（231 – 232 ページ）
林直樹（2010 年）「『小坂理論』に見る精神療法の『理論』」『精神療法』第 36 巻，776 – 778 ページ
林拓二（2010 年）「精神医療と精神医学の現在」『財団法人豊郷病院付属臨床精神医学研究所年報』第１巻，10 – 24 ページ（10 ページ）
笠原敏雄（2011 年）『加害者と被害者の“トラウマ”――ＰＴＳＤ理論は正しいか』国書刊行会（第６章）
末田邦子（2011 年）「精神衛生相談所の活動実態に関する研究――全 54 か所の検討から」『社会福祉学』第 52 巻，123 – 134 ページ（129 ページ）
笠原嘉（2012 年）『精神科と私――二十世紀から二十一世紀の六十年を医師として生きて』中山書店（53 ページ）
笠原敏雄（2014 年）『幸せを拒む病』フォレスト新書（第５章）
飯田文子（2017 年）「昔の記録から（その１）」『おりふれ通信』第 362 号，２– ４ページ
中澤正夫（2017 年）『巨大なる空転――日本の精神科地域処遇はなぜ進まないのか』風媒社（125，132 ページ）
笠原敏雄（2020 年）『人間の「つながり」と心の実在』すぴか書房（第４章）

批　判

藤沢敏雄（1971 年）「過渡期の悲劇――小坂英世氏に関するおぼえ書き」『精神医療　第２次』第２巻２号，118 – 122 ページ
広田伊蘇夫（1971 年）「もちあじ論への疑問――園田よし氏（あけぼの会）との関連から」『精神医療　第２次』第２巻３号, 87 – 90 ページ
小木貞孝, 金子嗣郎（1973 年）「対談・歪められた精神病院像」『病院』第 32 巻，102 － 111 ページ（103 － 104 ページ）
臺弘（1978 年）「解説」臺弘編『分裂病の生活臨床』（創造出版）所収（６ページ）
浜田晋（1983 年）『街かどの精神医療』医学書院（204 – 206 ページ）

浜田晋（1986 年）「小坂療法と私――小坂流家族療法の再検討」大原健士郎，石川元編『家族療法の理論と実際　1』（星和書店）所収

浅野弘毅（1995 年）「小坂療法の波紋」『精神医療』第 83 号，61－66 ページ〔浅野弘毅（2000 年）『精神医療論争史』批評社（第７章）再掲〕

浜田晋（2001 年）『私の精神分裂病論』医学書院

浜田晋, 川上武（2001 年）「対談　臨床日記からみる戦後病人史――『私の精神分裂病論』が提起したもの」『週刊医学界新聞』第 2443 号

川上武（2002 年）「地域精神医療への道　小坂英世――分裂病者の治療」川上武編著『戦後日本病人史』（農文協）所収

浜田晋（2005 年）「小坂理論の後始末」『精神医療　第４次』第 39 号，98－102 ページ

浜田晋（2010 年）「小坂英世という男」『精神医療　第４次』第 59 号，153－162 ページ

未入手論文

小坂英世（1963 年）「精神障害者の早期発見と管理」『精神衛生シリーズ』第 12 号（神奈川県平塚精神衛生相談所）

Kosaka, H. (1963). Health administration of psychotics in Tochigi Prefecture. *Proceeding of the Joint Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology and the American Psychiatric Association, 1963*.

河村高信，小坂英世（1966 年）「訪問指導体制のあり方」『公立精神病院長協議会誌』19－25 ページ

本目録は，編者が所持していた文献，小坂英世のもとにあった文献および資料に加えて，国立国会図書館オンライン，isho.jp（医書ジェーピー株式会社），CiNii，Google Scholar などのデータベースを介して，さらにはそれらの文献の参考文献欄や，精神科医療史資料室・岡田靖雄先生の示唆を通じて得られたものである。実際の収集に当たっては，愛知淑徳大学・末田邦子教授，日本速読教育連盟理事長・佐々木豊文，東京精神医療人権センター・飯田文子相談員，国立国会図書館複写課，神奈川県精神保健福祉センター，群馬大学医学図書館，国立精神・神経医療研究センター 図書館、品川区立五反田図書館その他の協力を得た。

上記の「未入手論文」の３点はその所在すらつかめない状態にある。ご存知の方がおられたら，ぜひお知らせいただきたい。